

子どもの育ちを支えるために 大切にしたいこと

— ところ、ことば、コミュニケーション —

国立特別支援教育総合研究所

牧野泰美

エールぎふ学習会 / ぎふメディアコスモス

2025.1.17



ご参加の皆さまへ

- 子どもの成長を願い、支え合う保護者や指導者。子どもの育ちとともに、保護者や指導者も育っていく。支え合い、助け合い、育て合うことは、相互に、育ち合うことでもあります。
- つながること、仲間になることは、大きな力をもたらします。その力は、自分にも返ってきます。
- 私も、多くの指導者・支援者の方々、そして保護者の皆さんとのつながりに力を得て、日々の研究・仕事をしています。
- 日々、子どもと向き合っていくことへの活力、元気、勇気が出てくる。そんな話をしたいと思います。そして、不器用で、人が苦手で、人前でしゃべれなかった、子どもの頃の自分にも語りかけてみたいと思います。

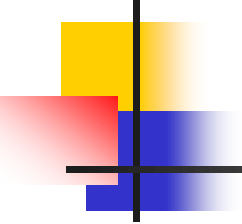


1. はじめに

- 多様な角度から、多様な見方を！
(見方を変える、視点を変える、角度を変える)
- 子どもにコミュニケーションを求める大人の側は？
- 殻ごと大きくなればいい
- 大人の見方が追いつめることも！

2. 今の子どもたちの現状から、 考えておきたいこと

- 今の子どもたちが生きる状況
- 役立つということ
- 持っている力を使わないと衰える
- 力が身につく(高まる)のは、手持ちの力を使った結果
- 喜ばれるということ

- 
-
- 認める価値を多様にもつ
 - できる／できない、ではない見方は？
 - 子どもの感性をまるごと認める
 - 本当に子どものよさが見えているか

3. 自己意識・自己肯定感に ついて

- 自己意識は他者の存在の中で生まれる
- 他者のまなざしの中で自己を見つめ、自己を他者から区別する
- 他者(周囲)と自己の状況、関係によって変化する(肯定的にも否定的にも)
- 自己肯定感は直線的に形成されるものではない。しかし、自己否定ばかりになると、暮らしにくく、生きにくい
- 自己有能感と自己肯定感

4. 自己を上手く保つ、支える ために

- 他者に認められる実感
- 喜ばれる／役立つ実感／存在意義
- 自己決定(自分が主体)
- 自分を知る、学ぶ、理解する
- 「体質」のようなものとして捉える
- 回復力・逆境力・立ち直る力・しなやかさ
- 周囲の理解を広げる
- 仲間の存在／モデルになる人の存在

5. ことばと

コミュニケーション

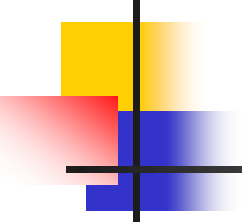
- コミュニケーションは情報や情動を伝え合う活動で、双方向的なもの
- コミュニケーションの成立／障害は、「個」だけでなく、相互の「関係」に要因がある
- コミュニケーション機能（能力）の未熟／通じにくい、つきあいにいと感じる関係



- 客観的な把握／主観的な理解

- 子どもと関わり手の内面の重視

- ・ことばは人と人(物・事柄)をつなぐ
- ・しかし、ことばによって初めてつながるのではない
- ・つながったところにことばは生まれ育まれる
- ・つながる／同じ気持ちを味わう／同じもの・ことにまなざしを向ける
- ・関わり手の好きな物・人・事柄／子どもの好きな物・人・事柄

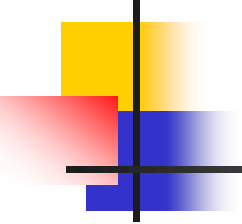


- 関係をつなぐ、深める

- 関係のつながり、深まりがことばを支える
- ことばは二者関係からはじまる
- 子どもと物、人、事柄をつなぐ

- 声のやりとり、体験・気持ちの共有

- 他人に向けて話す → 自分に向けて話す
- 内なる他者

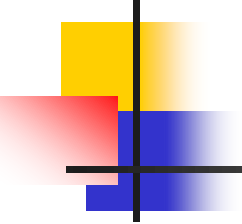
- 
-
- 好きなもの・ことを増やす
 - 好きなもの・こと → 好きなことば →
→ 使えることば

 - 馴染みやすいところから
 - 年上 / 年下 / 同年齢
 - 一人 / 少人数 / 比較的多い人数



6. 子どもと関わる上で

- 子どもとの関係は？
- 子どもへの視線は？
- 内面の重視
- 子どもの気持ちを見つめる
- 関わる大人自身の気持ちを見つめる

- 
-
- 力をつかう
 - 「今ここ」を大切に
 - できるということ(やっと／らくに)
 - 子どもに学ぶ(潤いのある暮らし)
 - 共通性と多様性

7. 私（保護者・指導者等） 自身を考える



- 私が背負っているもの、背景
- 私の焦りや不安の出どころは？
- 私自身の勇気と安心
- 私自身の暮らしの充実
- 支え合う仲間、雰囲気作り
- お互い様の精神



8. 個別（通級）の場のよさ

- たまに会う
- 十分なやりとり／独占
- 比較しない
- 通常の学級とは異なったまなざし
- 自己の発見
- 開く／閉ざす
- 一緒に決める



9. 「暮らし」という視点

- 日々の暮らしの中での子どもの思いは？
- もしかしたら、大人目から見た子どもの問題？
- ことば(例えば「発音や吃音」の問題は「いつでも、どこでも、誰とでも」ではなく、暮らしの中での、その場、その人、との関係の中で生じている。
- 子どもの内面の中での、場や人や自己(との関係)の認識によって影響される
- 大丈夫な人を一人、大丈夫な場を一つ、増やす
- 大人の価値、との関係
- 子どもの「今」の充実が必要



10. 「私」の再構築

- 私(子ども)はどうやって意味づけされてきたのか
- 私(子ども)の行動、声、ことばは、どうやって意味づけされてきたのか
- 育ちの中で意味づけ、形成されてきた私(子ども)
- 意味づけしなおす、私の再形成、再構築
- がんばりどころとそうでないところ
- 「ねばならない」ことはない。「ねばならない」からの解放／そんな考えもあったのか
- 今も人生の本番／どこでも人生の舞台

11. 特に家庭や通常の学級で大切にしたいこと

- うまく言えないこと(例えば、どもること)は、悪いことでも劣ったことでもない
- 努力不足ではない
- 上手な捉え方を見つける(個性、くせ、体質、等)
- 本当に聞こうとする姿勢
- 認め合う雰囲気
- 徹底的に味方になる勇気



12. おわりに

- 生き方研究所
- 子どもが発音や吃音、等々のことからくる、自分自身への縛り(制限)から解放され、自分の世界を広げていく自由を手に入れるために…
- ことばは ところを 超えない
- そばにいてくれるだけでいい



参考 1 : 振り返りの視点 1

- 子どもにとって私は、話したい相手か？
- 一緒にいたい相手か？
- 明日、子どもと会うのを楽しみにできているか？
- 子どもに、自分の好きなものを伝えているか？
- 子どもに自分を開いているか？

参考2：振り返りの視点2

- 子どものことを思うとき浮かんでくる物・人・事柄
- 子どもとの最近の思い出、子どもに対する思い
- 関わり手自身が好きな物・人・事柄、楽しんでいること、してみたいこと(特に子どもといっしょに)
- 子どもから見た関わり手が好きな物・人・事柄
- 子どもが関わり手を見るとき、思い浮かべそうなこと
- 子どもが好きな物・人・事柄、楽しんでいること、したがっていること

参考3：

子どもを見るということ

- 関わり手が子どもを見ることは、子どもに対して自己の世界を投影する面をもつ
- 見られる子どもの側は、関わり手の視点で自己を見つめることになる
- 両者の見方が不快な状態として固定したとき、コミュニケーション障害が生じる
- コミュニケーション障害は、子どもに対する関わり手の内面世界の構成により生じる

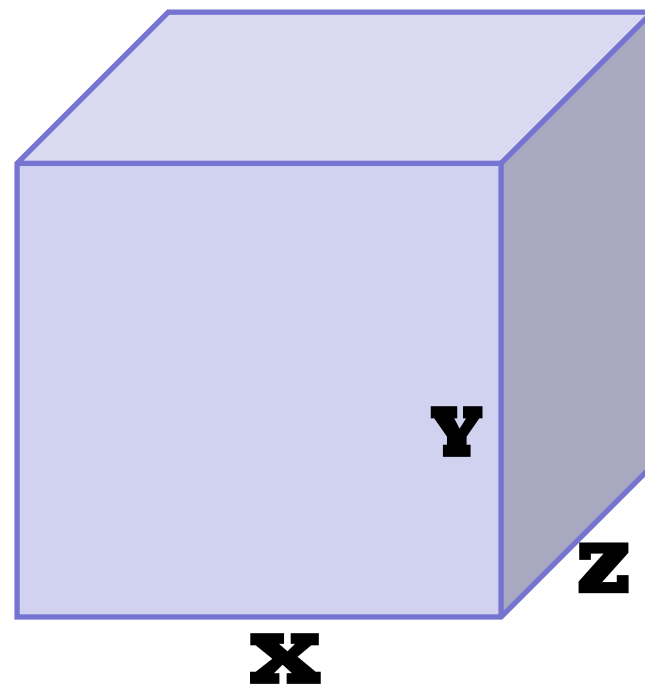
参考4:

子どもとの関係構築(改善)の視点

- 子どもの思い・気持ちを解釈(推測)し、子どもの視点で周りを捉える
- 子どもの行動を様々な解釈してみる
- 子どもの楽しみに充分つきあってみる
- 子どもの楽しみにつきあう中で、自分の楽しみも発見する
- 自分の楽しみを伝える
- その子らしさを肯定的に捉える
- 楽につきあえたときの自分の気持ちを振り返ってみる

参考5: 言語関係図

- X: ことばの状態
- Y: 周囲の態度・反応
- Z: 本人自身の反応





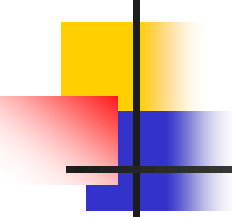
参考6:成人吃音者のことば

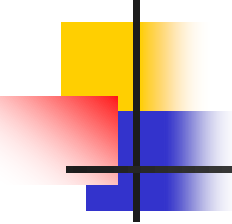
- 吃音は自分に与えられた良質のテーマ。
- 吃音は自分の全てではないが、大切な一部分である。
- 吃音は日々取り組まざるを得ない問題で、他の問題の対処の仕方も学べた。
- 弱いと思っていた部分が自分らしさを磨いてくれている。
- 吃音があったから人の気持ちに気づけた。

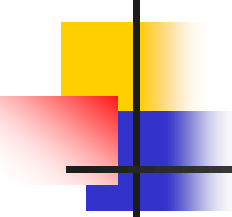


主な文献

- 牧野泰美(2023) 吃音のある子どもとその家族への支援. 2022年度研究紀要, 全難言協・道言協.
- 牧野泰美(2021) ことばとコミュニケーションにかかわる障害. 特別支援教育の実践情報, 203号, 明治図書.
- 牧野泰美(2021) 子どもの「暮らし」、「生きるかたち」を支える難聴・言語障害教育. きこえとことば, 39号.
- 牧野泰美(2021) 吃音のある子どもへの指導・支援を考えるー教育(教師)に求められることー. きこえとことば, 39号.
- 牧野泰美(2021) レジリエンスと関係論. スタタリング・ナウ, 24号.

- 
- 牧野泰美(2019) 子どもと教師の関係づくり、子どもと教師のコミュニケーションを支える視点. 特別支援教育研究, 741号, 東洋館出版.
 - 牧野泰美(2019) 子どもの育ちを支えるうえで大切にしたい視点. 特別支援教育研究, 742号, 東洋館出版.
 - 日本言語障害児教育研究会(編) 牧野泰美(分担執筆) (2017) 基礎から分かる言語障害児教育. 学苑社.
 - 柘植・木舩(編) 牧野泰美(分担執筆) (2015) 改訂新版「特別支援教育総論」. 放送大学教育振興会.
 - 牧野泰美他(2015)「ことばの教室」ことはじめ. 特総研.₂₇

- 
- 渡邊美穂・牧野泰美(2012) 自分と向き合う子どもの育成. 特総研ジャーナル, 創刊号.
 - 牧野泰美(編著)(2011) 吃音を知る・学ぶ、自分を知る・学ぶための手がかり. 科学研究費報告書.
 - 牧野泰美(2011) 人(子ども)との関わり、自分自身との関わりを考える. スタタリング・ナウ, 200号.
 - 牧野泰美(2008) 小・中学校における特別支援教育の推進・充実に果たすことばの教室の機能と可能性. 特総研プロジェクト研究報告書.
 - 牧野泰美(監修)阿部厚仁(編)(2007) 言語障害のおともだち. ミネルヴァ書房.

- 
-
- 牧野泰美(編著)(2007) 吃音のある子どもの自己肯定感を支えるために. 特総研.
 - 牧野泰美(2006) 言語に障害のある子どもの教育と自己肯定感への支援. 発達, 106号, ミネルヴァ書房.
 - 牧野泰美(編著)(2005) 通級指導教室における言語障害児への生活充実指向型教育支援プログラムの構築. 科学研究費報告書.
 - 牧野泰美(2004) 関係論的視座からのコミュニケーション障害研究の動向. 特殊教育学研究, 42巻1号.
 - 松村勘由・牧野泰美(2004) 我が国における言語障害教育を取り巻く諸問題. 特総研研究紀要, 31巻.

連絡先

〒239-8585

神奈川県横須賀市野比5-1-1

国立特別支援教育総合研究所

牧野泰美

Tel: 046-839-6844 (牧野直通)

E-mail: makino@nise.go.jp